

まちの史跡めぐり

199

町文化財専門委員 石龍 豊美

太祖神社下宮から上宮へ（篠栗町若杉）

若杉山（標高681メートル）は須恵町と篠栗町にまたがっています。若杉山を遠くから見ると、稜線がいぐり頭のようにギザギザとして見えます。神木として保護されてきた杉の巨木がうっそうと茂っているからです。若杉山は信仰の山で霊峰とも呼ばれます。

11月のある日、須恵東中学校と守母神社の間の道「切通」を抜けて篠栗町若杉にある太祖神社下宮を訪ねました。カブトの森公園の向かい側に「太祖宮」の扁額を掲げた大きな鳥居がありました（写真1）。鳥居の手前の石柱はしめ縄を掛けるためのもので、右に「造化靈威輝万古」、左に「蒼生長仰太祖山」と書かれています。



写真1



写真2

ます。昭和6（1931）年の建立。鳥居の左側の柱の裏には碑文、右側の柱の裏には寄付者の名前が書かれていて、糟屋郡農会長、糟屋郡長のほかに、糟屋郡の各村農会とともに「須恵村農会」も名を連ねていました。大正13（1924）年の建立でした。碑文はよく読み取れません。

さらに進むと、右手に下宮が見えます。駐車場から上る階段の手前にしめ縄を掛けた石柱があり、階段の上に鳥居があります（写真3）。階段を上って左に向かうと黄色に染まったイチヨウが目について思わずパチリ（写真4）。そのさらに奥に社殿とその前の狛犬が見えてきます（写真5）。山頂の上宮はお参りするの



写真3



写真4



写真5

が大変なので、遠くから拝む遙拝所として下宮が設けられたものです。鎌倉時代以後、合戦が相次ぐようになると、軍事的な要衝としての若杉山に参詣することが制限されるようになって、下宮にお参りすることを強いられたという事情もありました。

境内の「祭神」の説明板によると、太祖神社で祭られている神は、正殿に伊弉諾尊、左殿に天照皇大神・志賀大神・住吉大神、右殿に八幡大神・聖母大神・宝満大神の7柱。八幡大神は応神天皇、聖母大神はその母・神功皇后です。宇美八幡宮で神功皇后が応神天皇を生んだという伝承がよく知られています。糟屋郡の神社で、



写真6

神功皇后と応神天皇の母子を祭っているところはたくさんあります。正殿の伊弉諾尊が太祖神社の神で、仏教風に太祖権現と言われることもあります。太祖権現の信仰をめぐってはいくつもの説があります。

境内に「太祖下宮改築碑」と題した記念碑があります。境内に「太祖下宮改築碑」と題した記念碑があります。境内に「太祖下宮改築碑」と題した記念碑があります。



写真7



写真8



写真9



写真10

帰り道、大谷池の穏やかな水面に守母神社が映り、すばらしい景観でした（写真10）。

